

第1回 守口市まち・ひと・しごと創生委員会 議事録

日 時 : 平成27年8月26日(水) 10:00~12:00

場 所 : 守口市議会第1委員会室

出席委員: 12名

眞鍋昇委員、山口行一委員、瀧川光治委員、赤堀彰則委員、宮本一彦委員、
南口哲也委員、中堀恭平委員、石井貴委員、佐竹雅幸委員、岩佐聖二委員、
長谷川敦子委員、吉岡典昭委員

欠席委員: 1名(大谷英里子委員)

傍聴者 : 2名

◆市長 ◎委員長 ○委員 ●事務局

I. 開 会

●事務局

定刻となりましたので、「第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」を開催いたします。委員の皆さまにはご多忙の中、本日ご参集いただきありがとうございます。私は、当委員会の事務局を務めます企画財政部課長の助川です。どうぞよろしく願いいたします。開催にあたり、西端市長よりご挨拶いただきます。

1. 市長挨拶

◆市長

ただ今、ご紹介頂きました守口市長の西端です。「第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

平素は皆様方には格別のご理解ご協力を賜り、あらためて厚く御礼申し上げます。皆さま方に委員をお願い申し上げましたところご快諾いただき、ご多忙中にも拘わらずご出席いただきありがとうございます。

本市はこれまでもりぐち改革ビジョン(案)に基づき行財政改革を進めながら、子育て支援の大幅な拡充や教育環境の充実などの施策を行って参りましたが、少子高齢化、人口減少問題など大きな課題に直面している状況も事実です。住んでみたい、住み続けたいと思えるまちとして第5次守口市総合基本計画に掲げる「歓響《かんきょう》都市もりぐち」を実現するには、何よりも将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていかなければなりません。そのためにも、「守口市の人口ビジョン」および「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、今後の人口減少にいかんにか歯止めをかけ、まち・ひと・しごとの創生を通じた好環境を確立するかという、非常に重要な位置づけとなるものです。委員

のみなさまの幅広い知識や経験・見識から活発な議論を行っていただきますようお願い申し上げます。委員のみなさま方には、これから長期にわたりご苦勞をおかけしますが、どうか慎重にご審議を賜り、今後の守口市の創生にお力添えを頂きますよう心からお願いを申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 委員等紹介

●事務局

委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。委員名簿の順に従ってご紹介させていただきます。

(各委員紹介)

大谷英里子委員はご欠席の連絡をいただいております。委員の皆さまへの委嘱状はお手元に置かせて頂いておりますので、よろしくお願ひいたします。

次に事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

本日、委員会の委員長選出までの間、企画財政部長を仮委員長として委員長として進めたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員全員

(異議なし)

●仮委員長（企画財政部部長）

委員長選出までの仮委員長を務めさせていただきます企画財政部の南野です。よろしくお願ひいたします。事務局より本日の出席委員数をご報告申し上げます。

●事務局

本日の出席委員は定数13名中12名です。

●仮委員長（企画財政部部長）

ただ今、事務局から報告がありましたとおり、「守口市まち・ひと・しごと創生委員会条例」第5条第2項の規定に基づき、定足数に達しているので会議は成立いたします。

II. 議題

議題1. 委員長並びに副委員長の選出について

●仮委員長（企画財政部部長）

委員長は「守口市まち・ひと・しごと創生委員会条例」第4条第1項に「委員の互選による」となっていますが、指名推薦とすることはいかがでしょうか。異議がないようですので、指名推薦することと致します。眞鍋委員に委員長をお願いできればと存じますが、

いかがでしょうか。

○委員全員
(異議なし)

●仮委員長 (企画財政部部長)

異議がないようですので、眞鍋委員に委員長をお願いすることと致します。委員長が選出されましたので、委員長職を交代します。ありがとうございました。

◎委員長

眞鍋と申します。たぶんこの中で一番年長者なので選ばれたと思います。どうぞよろしくお願いします。

副委員長の選出についても条例によると互選ですが、指名推薦でよろしいでしょうか。異議がないようですので、山口委員をお願い致します。よろしく申し上げます。

○副委員長

微力ですが、職務を全うしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

私は大阪工大で、守口市からは5～10分で大変親しみを感じています。専門はまちづくりですので、そちらの方面から貢献できればと思います。よろしく申し上げます。

議題2. 「守口市におけるまち・ひと・しごと創生について」の諮問

◆市長

「守口市まち・ひと・しごと創生委員会」委員長眞鍋昇様、市長西端勝樹。「守口市におけるまち・ひと・しごと創生について」諮問。「守口市まち・ひと・しごと創生委員会」条例第2条の規定に基づき、「守口市におけるまち・ひと・しごと創生」について、委員会の意見を求めます。どうぞよろしくお願い致します。

◎委員長

市長から諮問を賜りましたので、成果があがるよう努力したいと思います。委員のみなさま、議論をよろしくお願い致します。西端市長は公務のため退席されます。ありがとうございました。

議題3. 委員会の運営

◎委員長

原則、この委員会は公開となっています。議事録については、各委員の皆さまに自由な議論をしていただくため、委員長や委員という表記とし、個別の発言者の氏名は伏せた形

で公表することで、お願いしたいと思います。

なお、議事録は委員長、副委員長をのぞく出席頂いた委員2名による署名の後、公開対象とお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。異議がないようなので、そのように進めさせていただきます。本日の署名委員ですが、瀧川委員と赤堀委員にお願いします。

それでは、当委員会を公開にしますので傍聴について、傍聴要領案を事務局から説明頂きます。

●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生委員会傍聴要領案」説明)

◎委員長

事務局からの説明についてご意見はありませんか。ご意見がないようですので、この案のとおりに対処したいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員全員

(異議なし)

◎委員長

異議がないようですので、この案のとおりに対処としてお願いいたします。

今日は傍聴の希望の人はいらっしゃいますか。

●事務局

はい

◎委員長

傍聴者2名の入室を許可いたします。

(傍聴者2名)

議題4. まち・ひと・しごと創生の概要について

●事務局

(「内閣府 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット説明)

◎委員長

ただ今の説明について、ご質問等ありますか。

また、何かありましたら、後のご意見交換の時にお願いいたします。

議題5. 守口市人口ビジョン及び守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制等について

●事務局

(資料「守口市人口ビジョン及び守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制について」「スケジュール予定」説明)

◎委員長

この件について質問等ありますか。これも、後のご意見交換の時にいろいろお考えを出して頂ければと思います。

議題6. 人口動向等について

●事務局

(資料「守口市の人口動向」説明)

◎委員長

これについてご質問ありますか。なければ、意見交換にはいります。

議題7. 意見交換

(1) 守口市が地方創生にあたって重視すべき考え方や活かすべき強み・資源、地方創生に関連した取組状況や今後の取組意向について

◎委員長

ご意見が出にくいでしょうから、各委員から順番にご意見を頂ければと思います。

○委員

にぎわいをつくるのが、大事だと思います。市外から転入者を増やしていかなければならないです。公共施設が老朽化していて、更新しなければならない時期に来ています。更新して魅力ある施設・地域をつくっていくことが必要ですが、なかなか官だけの力では難しいので、民間活力を投入して、魅力ある施設を作っていければと考えます。

◎委員長

それぞれ、質疑等は、最後に取りまとめて、意見交換をお願いしたいと思います。

○委員

教育・保育・子どもの福祉分野として話させて頂きます。まず、短期の計画として考えなければならないことは、今いる子どもたちに将来、守口市に住んでもらう、定着してもらおう対策が必要です。そのために、こどもたちにとって守口が魅力あるとともに、魅力が

あると感じることができる感受性も含めて考えた時に、気になるところは、不登校の子どもの数、若年層のフリーターの数。子ども達が将来納税者として守口で税金を納めてもらうためにどうしていくべきかという対策が必要だと思います。長期視点では、幼児期・小学校低学年の時期にきちんと人材・財政を投資することによって、将来生活保護率が下がるという研究があります。また、納税率、平均年収も上がります。幼児期・小学校低学年では充実した教育を受ける必要があります。ただし、小学校1～2年生時点では学力差が見えにくく、小学校3年ぐらいから徐々に学力差が目立つようになってきます。宿題など家庭学習を含め、家庭のなかで「早寝早起き朝ごはん」という基本的生活を営むことを、市が対策として取り組んでいく。即効性はありませんが、長期スパンでは大事なことだと思います。

○委員

資料（「まち・ひと・しごと創生『地方版総合戦略』のイメージ」）を準備しましたので、ご覧ください。私ども日本政策金融公庫は、主に中小企業への融資を専門にしており、地域の活性化に貢献しています。また、教育ローンによって、子育て支援を教育資金の融資を通して支援しています。

商工業の支援の観点から意見を述べさせていただきます。

守口市には第5次総合基本計画があり、「育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」という綿密に検討された骨子があります。私は総合基本計画を4月から一読していますが、骨子が具体化されて総合戦略に盛り込まれていけば、視点は詰められていくと拝察します。第5次総合基本計画の65頁あたりの「都市型産業の活性化」として、工業の振興、商業の活性化、農業の保全・育成ということが書かれています。今回、提出した資料は、地方創生の骨子が左にあり、日本政策金融公庫は既にどのあたりに絡んでいるかを書いたものです。

総合戦略をつくるうえで、一つの観点としてお願いしたいのは、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「好循環を支えるまちの活性化」です。

現在、守口市においては、「産業競争力強化法」に基づいて、門真市と一緒に「創業支援ネットワーク」をつくっています。まちにおける新規開業、創業を増やしていく取組みで、公庫の調査では、1企業あたり4人程度の雇用創出があるということで、地域の雇用を増やし、地方において安定した雇用を創出することに繋がっています。「創業支援」を視点に入れてはどうでしょうか。

守口の特徴として高齢化などがあります。私も工業関係の委員会や会合に行きますが、中心になって働いている経営者が非常に高齢化していると感じます。70代でも第一線で頑張っておられますが、今後、どうされるのか、事業を畳むと守口市の事業者数が減り、雇用機会が奪われてしまうのではないのでしょうか。こうしたところに、事業承継がで

きるようなスキームみたいのもので、支援できないでしょうか。守口における素晴らしい技術のある工場が流出しないように、守口でやっていけるようになると良いと思います。

各地を研究していると、地域によって、中心市街地活性化法に基づいて中心市街地を選定して、そこに補助金をつけたり雇用助成金を出したり家賃補助をすといった、地方自治体の例があります。守口にも市内に20をこえる商店街があるということです。空き店舗が出るなど大変なこともあります。子どもの情操教育では、商店街で育った子どもは昔のことをよく覚えている、「懐かしいな、ここで育った」という意識があります。そんなところを活性化出来る方法があればと思います、以上3つを挙げさせていただきます。

プレミアム商品券が即完売となりましたが、どのような消費に使われたのか、どのような効果があったのか、調べて教えて頂ければ、地域の活性化に役立つのではないのでしょうか。ここに盛り込めば、裏付けのある対策になると思います。

○委員

守口で生まれ育って40数年、守口は大好きな町なので、市民委員に応募させていただきました。今、市立小学校6年生、3年生の子どもがいる親です。守口市内で自営業を営んでいます。

さきほどご説明のあったように、守口市の人口が年々減っており、高齢化率が増えておりそれが毎月のように上がっていると聞いています。少子高齢化の守口市のなかで、生き生きとした守口にするためには、ひと、若い世代が守口に住みたい、守口で子どもを育てたいというまちになることが大事です。

そこで、やはり教育です。守口市の公立小中学校でしっかり学力等が身につくことが何よりも魅力になると思います。そして、安全・安心なまちであることが、子育て世代にとっても、高齢者にとっても、皆、何より住みたいまちです。教育については、今までもしっかりと教育委員会等が中心となって取り組んで頂いていると思いますが、これからの国際化社会に目を向けて、英語教育のさらなる充実や、文科省が推奨している土曜日教育ボランティア応援団等の制度を利用する等です。これは、先生だけでなく地域の大人の協力もあつてのことですが、土曜日の教育の必要性については、まわりの保護者から話も出ています。

そして、もうひとつは健康です。守口市だけでなく門真市も同様ですが、生活習慣病について、全国平均と比べて改善していかなければならないポイントと聞いています。守口市がいきいきと輝くためには市民の健康があつてからこそ。大人になってから生活習慣を改善するのは遅いので、幼稚園・小学校・中学校での食育を中心に自らの健康は自ら守る、自ら作る時代だということを伝えて行かなければならない。そうでなければ、30代、40代になって医療保険、介護保険などお金をどんどん使っていくというよろしくない状況になってしまいます。もちろん、しっかり取り組んだ上で、医療保険で治す、介護保険を利用するということですが、まず、市民の健康は企業にとっても有益なことであるので、ひ

とりひとりが健康意識を高めていかなければと思います。

商店街の活性化はほんとうに大事だと思います。買い物難民が守口でも増えています。個人商店や商店街が活性化することが、いきいきとした守口につながるひとつだと思います。そのサポートを行政や関係機関がしていただければと思います。

○委員

4月に守口に転勤してきて、守口市で仕事をするのは初めてです。銀行としての立場より、一個人としての意見を申し上げます。通勤にも、非常に便利なエリアです。大阪市にも隣接しており、大日駅前もかなりの商業施設が集積しており、地場産業もそれなりにあるエリアだと思います。大学もあります。それにも関わらず、昭和45年から人口が減っているのには、驚きました。その原因はどこにあるのかと素直な疑問を持ちました。何らかの理由でいろんな人が出て行っている、もしくは新たに住もうと思った時に守口市を選択しなかったということでしょうか、これだけ便利なのにその原因は何なのか。全国で見ると人口減少しているのは2008年ぐらいからだが、守口市では昭和45年から減り続けている理由は何なのでしょう。

地方創生の考え方として、人が増えることで、産業が集まり、地元の商売等が活性化するので、人口を増やすことが、大きな目的です。そのために何らかの明確なビジョンを示す必要があると思います。

若い世代が守口市を選ぶ仕組みをつくる。例えば、子育て・教育を考えたり、保育所の問題などで、なかなか奥さんが働けない状況の中で、守口に来れば安心して若い世代が住めるという分かりやすいビジョンを出すことです。すごく時間がかかることかもしれないが、地道にこつこつ取組み、人口のプラミッドの形を変えていくような取り組みが必要です。例えば、大学を誘致するなどもあるかもしれない。安心して若い世代が住んで、子どもを産んで夫婦で子育てをするのに、守口市に住むのが良いということがあれば、人が増え、産業が増え、守口市にある会社で働く人にとってもプラスになる、守口市の会社に就職すれば子育ても心配せずに働ける、といことになれば、好循環になり、事業所が増える、商店が活性化することにつながります。単純なことですが、何らかのビジョンを明確に出していくことによって、人口が増え、産業が増え、市が成長していくトレンドになります。委員会の場で議論して、守口市のあるべき姿を、いろんな形で対外的に示していくことを検討できればと思います。

○委員

守口門真商工会議所は、中小企業や小規模事業者と接点を持つ組織です。守口の特徴として中小企業がかなり良い技術を持ち魅力があると感じます。人口を増やすために、働く場所を確保するのは明確ですが、働く場所ということで魅力ある中小企業を増やすことが一番効果が高いと思います。働く場所、特に工業関係で魅力のある企業を増やすと、従業

員が増え、流入人口も増え、昼食もとるし、働いた後に飲みに行くなどで商業関係にも波及することが一般的に言われています。魅力のある中小企業、特に工業を引っ張り上げられる戦略を盛り込んでいただければ良いと思います。

あと、中小企業の社長が高齢化しているので、魅力のある会社を廃業にしないためにも、事業承継に注視して戦略をたてて頂きたいと思います。

○委員

高齢化が進んでいるので、どうやって守口市の人口を増やすかに集約していくべきで、やはり少子化対策により注力していくべきだと思います。ひいては産業活性につながっていくと思います。

少子化対策として、安心して子育てができる環境であることが重要になってきます。子育て支援をより注力して充実していく。教育もありますが、やはり母親への支援や安全なまちづくり、医療支援に、財力や人材を注力していくことが、時間がかかっても、大きな成果を生むと思います。

安全面では、防災や、先般の寝屋川の痛ましい事件もありましたがそれも含め、犯罪抑止ということで監視カメラを増やす、人材を入れるなどで防犯に力を入れて行くと、安心して住めるまちということで、マンションを建ててもそれが魅力となって若い人が住む町づくりが出来ると思います。

商店街もさびれていると住みたくない気持ちになるので、防犯面も含めて商店街の活性化も必要かと思います。しかし、あまり手を広げ過ぎると市職員も人材面で大変なので、子育て支援を重点的な対策とするのが良いと思います。

○委員

個人の立ち位置からこの問題を考えてみました。ひとつは働く場としての守口市、生活者、住んでいる人にとっての守口市、訪れる、通り過ぎる人の守口市の3つの視点があると思います。地方創生はどここの市でもやっています。どここの市も同じ議論を繰り返しながら同じような結論になってしまいます。守口市がどのようなことを打ち出すか、明確な形で発信していかなければ、埋没してしまうのではないかと思います。個人の立ち位置からそれぞれ自分のこととして、考えてみました。

私はパナソニックに定期採用で入り今50代半ばで、働く場として守口市と付き合いがあります。新入社員の8年間とここ5年間との計13年間は、実質守口市で仕事をしています。生活者としては、私もいろんな所9都市を転々としてきました。この近辺では、高槻市で17年、枚方市で5年、豊中市で5年、寝屋川市で3年、守口市で2年住んでいます。交野市にある社宅の時に子どもが出来て、和歌山にいる両親の支援が必要となり、守口市の大日の賃貸マンションに住みました。会社に徒歩で10分、和歌山からも来てもらいやすいロケーションということで選びました。その時に感じた守口市の訴求ポイントは、交通の便

が良い、鉄道も道路も空路も非常に便利ということです。2年間住んでみて分かったのは、物価が安い、買物が便利ということです。病院も結構充実しています。分析どおりの実感でした。

企業の視点としては、入社時には守口市と門真市に、松下電器、三洋電機、松下電工の大きな会社が3つあったが、今はパナソニック1社になってしまったので、これが働く場の縮小に大きく足を引っ張っていると思います。

守口をこれからPRしていくためにどのような事が大事か考えてみましたが、訴求ポイントは多くあるでしょうが、「育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」というのを聞いても、何を言っているかよく分かりません。何かに絞って打ち出すべきと思います。

住民目線が非常に大事です。市役所は自分たちがやっていることを中心として物事を考えがちだが、住民からの視点、住民は何が関心があるかが非常に大事だと思います。住民目線で何かをPRしていく際には、何らかのサンプルシーンが必要ではないでしょうか。弊社でも「Jコンセプト」といって高齢の方に対する家電のコンセプトを打ち出しています。「Jコンセプト」に特化してシンプルな形で打ち出しています。何となく頭にイメージが残っていくという打ち出し方をしています。そのようなことも必要ではないかと思います。

○委員

一番重要なのは、子育て支援だと思います。ブランド力をあげるためには、何かフラグが欲しいです。フラグを上げるためには、出来る限り短期間で成果をあげないといけないが、社会環境的な課題の中で、フラグをあげやすいのは子育て支援、教育でしょう。

守口市は交通の利便性や日常的な商業を含め環境は良いですが、どうしても老朽化したまちが一定の面としてあり、高齢化が進んでいるので、おそらく空き家も増えてきているでしょう。基盤も古く、弱くなっています。先ほど言ったフラグの部分と、もうひとつ、時間も住民の意識や費用もかかることですが、面的な整備を持続的に進めていくことはとても大事だと思います。知り合いを見ても、独身の時は便利ということで守口市に住んでいる人が結構いますが、結婚すると、大阪市内や枚方の方に出て行ってしまふ。どうしても、結婚して家庭を持つ時には、まちのイメージや雰囲気、まちの選択理由として出てきてしまいます。基盤整備を含めたまちのリニューアルを中心にしたいと思っています。

○委員

公募委員で専業主婦です。市民の視線で述べさせていただきます。若い人の婚姻率がすごく下がっていると思います。全国的にそうですが、守口でもなかなか結婚しない人が増えているのではと思います。若い人の理想がどんどん高くなっていることもあるし、結婚してもメリットがない、デメリットの方が多から結婚しないという人も多いと思います。

また、今は派遣社員が多くなかなか正社員の雇用がなく、経済的に安定していないので結婚できないカップルも多いと思います。そういう面でも雇用安定が大事だと思います。社会的にはイクメンで奥さんの子育てのお手伝いをする人も増えてきているようですが、共働きの女性に対しても、保育所の待機児童をなくそうというような動きはありますが、実際には、良い施策があっても、イクメンに対する社会の目、育休を取ることへの理解はなかなか得られにくい状況で悩まれている所だと思います。私自身も子育てを10年間専業主婦でやってきたのですが、子どもを保育所に預けて働くお母さんはすごく大変という思いがある一方、専業主婦は誰にも頼れないし、育児家事はやって当たり前とされ、育児は24時間なので人に相談出来ないという状況で、子育てしにくい社会だと感じます。手当やサービスを増やすよう要求されていると思うが、それ以前に、子育てに対する理解や共感がすごく大事です。これからも、市民目線で考えていきたいと思います。

○委員

皆さんから政策レベル的なアイデアを出して頂いたので、具体のレベルで何かないかと考えていました。

ひとつは、守口市には空き家問題や密集の問題が深刻だと思います。ハウジング、若者にとって暮らしやすい住宅の提供、例えばスマートシティやスマートハウスなど一歩進んだ取組みをやってはどうかと思いました。

駅前の賑わいの創生も大事だと思います。守口市は便利だが、子育ての世帯から見ると、仕事から帰ってきた遅い時間に開いているスーパーが十分あるのかとか、通勤途中で子どもを預けられるような幼児保育施設が十分なのか、といった点からの駅前の面的な整備をしなければならないと思います。

大きい道路や鉄道は便利な反面、地域を分断するので、地域コミュニティの再構成を考える必要があります。自転車や歩行者のレベルでまちが使いやすくなっているかという取組みも必要だと思います。

○委員長

以上につきまして、総合的にご質問等はないでしょうか。

委員の皆さまから頂いたご意見は、事務局でとりまとめて頂き、それをまた皆さまにご相談させていただきます。言い忘れたことがあれば事務局にご連絡頂き、調整のうえ、後日聞かせて頂きます。

(2) 「出生数の増加」や「若い世代の守口市への定着」に向けて

◎委員長

「出生数の増加や若い世代の守口市への定着」についてご意見を頂きたいです。先ほどと

重なる内容になるかと思いますが、順番をお願いします。

○委員

若い世代が転出しているので、若い世代が住みやすいまちづくりが必要です。保育所、教育施設が主流になりますが、それと同時にまちの賑わいをつくることが大事です。駅前など人が集まりやすいところに施設等をつくることを考える必要があると思います。教育施設だと皆が来るわけではなく停滞してしまうので、スマートシティ、コンパクトシティの観点で、集中してつくるといいのではないのでしょうか。

○委員

まず結婚したいのか、したくないと思っているのかという点から考えてみると、結婚については、両親が離婚しているひとり親家庭の子どもはまた離婚をするという負の連鎖という実情があります。結婚に対しての肯定的なイメージをいかに若い時につくるかも大事です。

また子育てへの自信については、今は若い世代が、だっこの仕方が分からない、子どものあやし方が分からないと困っている、スマートホンのアプリにあるガラガラの画面を子どもに見せて子育てしている人も一部にいるという実情なので、子どもと接する機会として、中・高生の時に地域の幼稚園・保育園に行き子どもとふれあい、子どもは可愛いなどという肯定的なイメージを持てるようにすることも大事だと思います。

女性の社会進出を考える時に、裏返して考えなければならないのは、男性も同様に社会進出しているので、子どもがおいてきぼりになり、家庭が機能しなくなるという問題があります。女性の社会進出とセットで考えなければならないのは、男性が家庭にきちんといること、「男性の家庭進出」をセットで考えていかなければならないと言われています。

子育てする中で、どの程度、家事や育児に関われば良いのかというと、仕事をしていると夜が遅くなり難しいです。社会として考えなければなりません。

商店街の活用に関連することでは、大阪の駒川中野商店街では、空き店舗、空きスペースを利用して、地域の子育て広場をやっている。久留米市でも同様の取組みがあると聞きます。子育て世代が子どもが大事にされていると実感できることが大事だと思います。

守口市の公立保育所は、建物が古いです。自分がここに子どもを預けたいか疑問に思われるほどの古さです。小学校や幼稚園なども含めた施設の老朽化を考えていかなければなりません。子どもが過ごすところが、未だに昭和の臭いが漂うような古い施設であることに魅力は感じられません。教育、保育、環境に対しての充実、人的資源だけでなく設備面での充実も必要です。

○委員

やはり子育て支援と結婚支援がひとつある。それと、まちづくりということで、賑わい

創出として駅前と商店街の活性化です。あと雇用機会をつくっていく。これらが若い世代の定着につながる。これら3つの視点が皆さまの意見にあり、私も同意見です。

○委員

若い世代、子育て世代が住みたいまちにするには、やはり仕事です。安定した収入がないと結婚したくないという発想になってしまいます。安定した収入があつてこそ、結婚、子どもを持ちたい、安心・安全なまちに住みたいということになります。仕事は守口市の中だけで考えるのは、なかなか難しい問題だとは思いますが。国の政策も影響してくるので。

教育については、貧困家庭こそ教育投資を重点的に行ってほしいです。経済学会では、就学前教育が生涯賃金に大きな影響を与えるという仮説が注目されているそうです。先進各国では共通の知見になっており、義務教育開始引き下げや幼稚園・保育園の補助増額に力を入れている動向です。子どもは生まれる家庭を選択できない。生まれたからには皆同じ教育をしっかりと受けられる環境づくりを公的に行っていかなければなりません。

何よりも、大人があいさつをして過ごす世の中でないといけないと思います。家が戸建てからマンションになって顔がみえづらくなり、自治会など地域活動もどんどん縮小している傾向と聞きます。ますます顔と顔でつながる関係が薄れています。そういう世の中では、行政がお金を使って、公園や緑地などをつくっても、難しいと思います。大人が、つながりが大事だということを認識しなければなりません。行政が予算をつけても、市民が理解しなかったり、これからの守口はどうなるのかという危機感を持たなければ、何事も動かないと思います。

地域経済分析システム「リーサス」が一般の人も使えるように、国が公表されたそうです。今までは、自治体、一部の公務員だけが得られるビックデータだったそうです。そういうものを利用して、PCを活用できる高校生、大学生を中心に、それらの情報を活かして、守口市、大阪、日本について、若い世代が自ら考えるような場をつくる支援を行政等ができるのではないのでしょうか。「(仮称) 未来を担う若者フォーラム 守口若者会議」といった分かりやすい名称にして、守口に住む若手、学生、若手市職員、若手議員まで、若い人に考えてもらうことも、一つの手だと思います。

最近、学校の統廃合で土地が出来つつありますが、売ってマンションを建てるのではなく、子どもが思いっきり遊べる場を考えて欲しいです。テレビで見ましたが、東京ではプレイパークが作られています。今は公園ではボール投げはダメ、あれもダメこれもダメ、遊具もケガを恐れて取り除くということですが、それでどうして危機管理能力や運動能力を促進できるのでしょうか。それが、土地の少ない東京で、プレイパークという思いっきり遊べる楽しめる公園があるのです。プレイパークと検索すれば分かるが、民間と行政とで力を合わせて思い切り遊べる遊び場を作っています。例えば、学校統廃合で空いた場所を、これから思い切り遊べる場所として頂きたいです。生まれてくる子どもたちのために、子どもの頃は勉強だけでなく体をつかうことも大事なので、守口市でドンと造ってもらえれば、

インパクトがあり、守口の名が知れ渡るかなと思います。行政ばかりにお金を出すようにとは言いません。地域の大人、大企業から中小企業まで協力が必要です。守口は地理的にも素晴らしい良い場所で、大学、医療機関等が整っていますので、ますます良いまちになっていくものがあります。後は、大人の意識をいかに変えるかが大事だと思います。

○委員

十分いろんな意見が出ていると思います。せっかくアンケートをするので、子どもを産む世代や定着して欲しい若い世代の実際の意見、このエリアの人が守口に対してどのように思っているのか、せっかくの機会なのでアンケートを活用して、本当のニーズを吸収することも大事ではないでしょうか。そこからいろいろな課題点等が見えてくるとと思います。子育てがしやすい環境、職業、通勤、環境、教育等いろんなことが複合的に絡んでいるので、もう一度アンケートからニーズを確認することと、そこから何をしていくか、じっくりと検討していくとよいのではないのでしょうか。

○委員

若い世代の守口市への定着に向けて、例えば、既に取り組みされていると思いますが、小学生や中学生の市内事業所・工場見学等をさらに促進する。また、高校生や大学生にはインターンシップ先を守口市内に紹介するといった取り組みをすれば、結婚して市外に行く人も少しは減るのかなと感じます。そのような人が増えれば出生数の増加にもつながると思います。

○委員

地域社会で子育て出来るような環境づくりを整えていくことが大事です。子どもは社会の宝です。個々の家庭事情にあまり左右されないような教育や支援を出来るような社会環境を整えていくことが、長い目で見て重要だと思います。

○委員

守口市の強みとして交通面が挙げられました。私の息子夫婦も、都心で働き郊外に住む共稼ぎだったが、子どもが産まれて妻の方が退職してしまいました。交通の便利なところに、安く整った保育施設があれば、たぶん仕事を辞めていなかったと思います。これが実感です。

○委員

先ほど、委員が触れられたのですが、小学校の統廃合が進む中で、まちづくりにおける種地が出てくる可能性があります。そこで、子育てやコミュニティなど広く民間から意見を取り入れたプロポーザルコンペ方式でまちづくりを進められないか。例えば私立小学校

を誘致するなど、大型、今までやってこなかった取組みをすればと思います。

○委員

先日、寝屋川の痛ましい事件がありましたが、子どもの虐待も増えており、各家庭だけで子どもを育てるのが難しい世の中になってきていると思います。まちぐるみで防犯していく、よその子どもにも声かけをしていくようにしたいです。

子どもを産まないお母さんが増えている。一人目は大丈夫だが、二人目三人目になると、上の子の世話も要るのに、父親の協力が得られない家庭や母子家庭もあります。安心して産める産婦人科やフォローしてくれる小児科がもっと増えてもよいのではないかと思います。入院中、上の子どもの面倒みてもらえる施設があれば、出産にも関係してくると思います。

私自身、ずっと子育て支援をしていて感じるのですが、支援の仕方が難しいと思います。支援すればするほど、母親ももっと求めてくるが、主体は各家庭であり、行政は出来ない部分だけへのフォローが大事だと感じました。

○委員

先ほど委員がおっしゃった、フラグ、プランニングも大事だと思います。PR すること、行政広報も PR の一環かもしれないが、対象となる年齢の女性にとって守口市は住みやすいまち、子育てしやすいまちであることを、守口市内だけでなく市外の人にも認識してもらうことが重要です。病院も多くあり、中小企業もたくさんあるので、子育て世代にも優しい、フレキシブルな勤務形態が取れるといったことを、しっかりアピールしていけるといいと思います。

◎委員長

最後にこれは言っておきたいということがあるでしょうか。

様々な専門の方からいろいろご意見を頂き、どれも素晴らしいと思いました。こんなに立地がいいところはないのに、人口が減っていくのはどうしてか。アンケートを丁寧に読んで、若い人がここに住みたいというポイントを次回はもう少しクリアにしたい。行政はここにもあそこにも温かい風がいくようにしなければ文句が出るので総花的になりがちだが、やはり集中すべきところ、重みづけを考えてほしいと思います。今、委員の方々からの話を聞くと、仕事は言うまでもなく重要だが、仕事があり、実際に働く若い人が来て、住みたいと思った時に、母親も働くのが基本になってきているので、いかに子どもを安心して育てられるかは、まちの雰囲気にもよると思います。今回も近くで不幸な事件がありましたが、そのような事件があると、危ないと印象づけられてしまいます。芦屋はいいなとか、まちには印象・イメージというのがあります。守口も、地道な施策も必要ですが、せつかく伝統のある古い良いまちなので、良い印象をいかに表に出していけるかも合わせ

て、まちづくりを考えていければと思います。

Ⅲ. 閉会

◎委員長

今日はどうもお忙しい中、ありがとうございました。貴重なご意見を賜りました。9月末にはアンケートのおよその形がまとまるということなので、次回はそれを報告して頂き、より具体的な形に整えたところから進めさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

以上